



新潟県作業療法士会ニュース

朱鷺
TOKI
鳥

No. 27

第19回新潟県作業療法学会を終えて

晴陵リハビリテーション学院

上杉文都

この度、2024年12月14日に新潟ユニゾンプラザにおいて第19回新潟県作業療法学会を開催し、約130名の皆様にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

今年度の開催方法はCOVID-19以前のように戻りましたが、オンデマンド配信という利便性の高い形式は引き続き提供した開催となりました。

本学会のテーマを「地域社会の課題を作業療法で解決する～一人一人が一步前へ～」といたしました。現在、新潟県において、地域社会の課題や地域共生社会構築に向け各方面でさまざまな取り組みがなされておりますが、私たち作業療法士の社会的な役割である人々の「活動と参加」を支援することにより社会に一層の貢献をしたい、今後作業療法の対象となる方をさらに一步前へと尽力したいという強い思いをテーマに込めました。

本学会では特別講演、教育講演、口述発表、ポスター発表、機器展示、アクティビティ展示に加え、今年度新たな企画として委員会セミナー、活動報告、委員会ポスター展示、学生作文コンクールを実施いたしました。どれも内容が充実しており、今後、私たちが作業療法を実践するために、そして今後のキャリアを考えるうえで非常に有意義なものであります。

次年度の学会は「第3回新潟県リハビリテーション専門職学術大会」となり2025年12月20・21日に朱鷺メッセで開催される予定です。ぜひご参加ください。

最後に本学会を開催するにあたり、ご後援をいただいた各団体様、機器展示いただいた企業様、開会式にご臨席いただきました皆様、ご講演をいただいた皆様、当日の運営にご協力いただいた皆様、そして、様々な準備をしてくださった学会運営委員の皆様心より感謝申し上げます。

第19回新潟県作業療法学会

2024年12月14日に新潟ユニゾンプラザにて開催された県学会の様子を一部ですがご紹介いたします。



上杉大会長による大会長講演



四方会長の開会あいさつ（中央：来賓のPT 士会佐藤会長
右：ST 士会佐藤会長）



元廣 惇先生による特別講演では、産業OTとして起業されるまでの経緯や、今取り組んでおられる事業、今後OTが社会の中で果たせる役割など幅広い内容であったという間の90分でした！



田中まさし参議院議員もオンラインでご参加いただきました。



昨年度からお子様同伴で学会に参加できるようになりました。会場はできるだけ安心して聴講できるように設営を試みました。各部屋の最後列に優先席を設けて入退場をしやすいしたり、サテライト会場ではお子様が退屈せずに滞在できるよう本やおもちも用意いたしました。今年度は合計で9名のお子様に参加いただきました。



ポスターの自由討論では聴講者の方から発表者の方へのたくさんの質疑応答がありました。発表者の方の発表に対する熱量がとても凄かったです！！



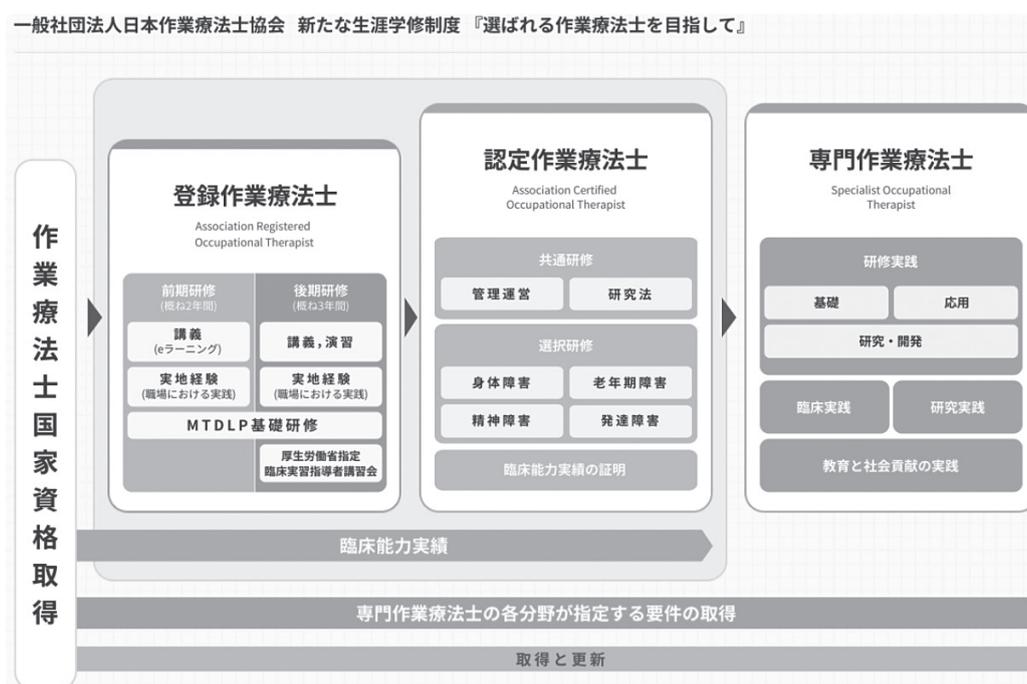
アクティビティ会場では、さまざまな分野で働く作業療法士の作品を見ることができました。自分の働く職場でも実施できる内容のアクティビティもあり、学ぶ機会となりました。

生涯学修制度が始まります

生涯教育推進担当委員 本田 岳

現在の生涯教育制度に代わり、2025年4月より生涯学修制度がスタートします。

生涯学修制度の目的は、多様な臨床実践場面において、より良い作業療法を提供する力を獲得するための研鑽を支援し、作業療法の専門性を向上させ、各々のキャリア形成に資することです。また、大きな特徴としては、現行の生涯教育制度のなかの「基礎研修制度」から、新たに創設される「登録作業療法士制度」に移行されることです。



(日本作業療法士協会ホームページから引用)

生涯学修制度についての情報は、日本作業療法士協会誌や、ホームページ「日本作業療法士協会生涯学修制度」で検索していただくと、皆様にご理解しやすいように動画を含め解説があります。情報については適時更新されますのでホームページ等をご活用し会員各位で情報収集を行ってください。

【生涯学修制度の大方針】

生涯教育制度の見直しがなぜ必要なのか。

作業療法士の有資格者が10万人を超え、作業療法士の質と量の担保、社会的地位向上のための根拠となる教育体制の構築、他関係団体の各種資格認定制度の要件に組み込んでもらえるだけの一定水準の質の確保が求められています。また、公益社団法人日本理学療法士協会の認定制度修了者数を比較したものが表1を参照となりますが、本会における認定制度終了者数が少ない現状にあります。

(表1)

	会員数	登録PT 基礎研修修了者 (OT)	認定PT 認定OT	専門PT 専門OT
(公社) 理学療法士協会	139,556名	62,917名	14,947名	1,697名
(一社) 作業療法士協会	61,015名	12,108名	1,470名	158名

(2024.3.31現在)

このままでは、国や他団体に対して作業療法士としての質の担保や社会的地位の向上、要望等が通りにくい現状となります。そのために日本作業療法士協会では生涯学修制度の大方針として登録作業療法士と認定作業療法士の目指す方向性と数値目標が示されました。

新生涯学修制度の大方針
「登録作業療法士と認定作業療法士の目指す方向性」

- ◆ 標準的な作業療法士の質と量を担保していくこと
- ◆ 報酬制度（加算・要件等）に繋がる関係省庁への要望を裏付ける根拠とすること（認定・専門 含む）
- ◆ 他関係団体の各種資格認定制度等の要件に組み込んでもらえるような一定水準の質を確保すること

登録作業療法士 = 30,000 人以上

認定作業療法士 = 8,000 ~ 12,000人

2030年度までを目途

【会員の皆様へ】

2025年度と2026年度は現行の生涯教育制度と生涯学修制度の二本立てで教育制度が進行し、完全な生涯学修制度への移行は2027年4月1日からとなります。教育制度の改定に伴い、現会員の皆様の登録作業療法士への読替も2027年4月1日から始まります。登録作業療法士への読替についての詳細は後日、日本作業療法士協会より示されますが、基礎研修修了していることが基本的な要件となる予定です。基礎研修が修了するよう現職者共通研修、現職者選択研修が未修了の会員の皆様には2026年度まで積極的に受講されるようお願いいたします。

制度改定に伴い、生涯教育委員会では来年度に皆様のご理解が図れるように生涯学修制度の説明会の開催を予定しております。皆様のスキルアップを支援できるよう努めてまいります。

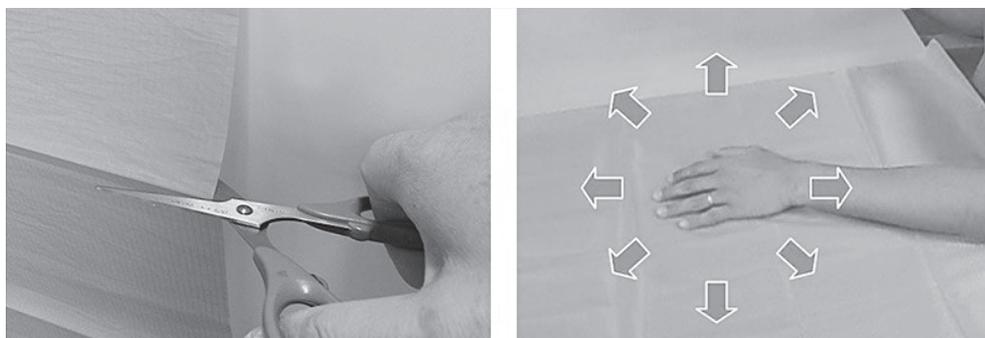
スライディングシート「スピラドゥ」のご紹介

介護老人保健施設新井愛広苑 作業療法士 池田 香奈

今回は、介護や医療現場での「移動・移乗・寝返り・更衣」動作の際に生じる摩擦を軽減し、動作を行いやすくするスライディングシート「スピラドゥ」を紹介します。

1. 特徴

- ① 滑らかな素材でできており、3種類の硬さが用意されています。
- ② 縦・横・斜めなど、全方向にすべりやすい性質です。
- ③ 必要な長さに切りだせる10mのロールで販売されており、用途に合わせて好みのサイズにカットすることができます。(カットされた状態での販売もあります)



2. 使用方法

2つ折りか2枚重ねで、二重にして使用します。

① ベッドでの体位変換・移乗に使用

体位変換・移乗時に摩擦を低減させて介助者の負担を軽減します。

② 更衣に使用

身体と衣類の間に差し込むことにより、更衣時の身体的負荷を軽減します。

弾性ストッキングの着脱の際にも皮膚と靴下の間に生じる摩擦を軽減し、少ない力で履くことができます。

③ リハビリに使用

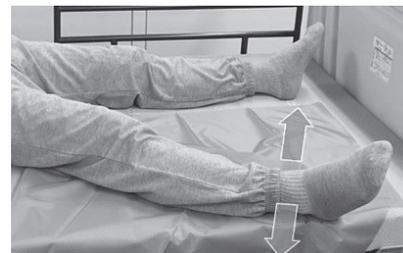
摩擦が少なくなることで、少しの力で動かすことができるため、筋力強化や可動域拡大に利用できます。



体位変換・移乗に



更衣に



リハビリに

施設紹介のページ



五日町病院

岩田 優佳

当院は昭和56年に南魚沼市に開設された維持期の精神科病院です。南魚沼市は、新潟県の南部に位置する四季折々の彩り豊かな自然景観に恵まれたところで、おいしい食べ物（本気丼が有名！）や温泉、スキー場が多くあります。田舎の病院ということもあり雰囲気は家族的で和気あいあいとしており、他部署と協力し合って仕事に取り組んでいます。

令和2年6月には病院の建て替えを行い、精神一般病棟（63床）、精神療養病棟（60床）、精神科デイケア（大規模）に加えて認知症高齢精神障害者の受け皿として認知症治療病棟（60床）を開設しました。

OT処方者数は160名ほどで、現在は個性豊かで面白い作業療法士6名としっかり者で頼れるリハビリ助手4名の計10名で活動しています。

病院の基本理念としては、患者様の声に「心耳を澄ます」を掲げて運営されており、作業療法室では「患者様個人をより深く知る」「患者様主体の関りを目指す」を目標にしています。

なかなか退院に結びつかない方が多く高齢化もすすんできておりますが、今後も人格を尊重しコミュニケーションを大切に1人1人に寄り添う医療を提供していけるよう努めていきたいと思っております。



へき地の医療・福祉・介護を支える山北徳新会 医療法人徳新会 山北徳新会病院

リハビリテーション科 齋藤 元浩

徳洲会グループは、故 徳田虎雄名誉理事長の生い立ちから、「生命だけは平等だ」「いつでも、どこでも、誰でもが最善の医療を受けられる社会」を理念に、救急やへき地・離島の医療に重点を置き運営しています。

当施設は、新潟県の最北端に位置し、人口4,625人、高齢化率52.5%の地域にある、病院（60床）・老健（入所100床、通所40名/日）・介護医療院（60床）を有する施設です。リハビリテーション科職員は、PT7名、OT4名、ST1名の計12名所属し、各事業所へ配属しています。

人口減少と高齢化が進む地域のため、高齢者単身や認知介護世帯の増加、医療・介護施設の閉鎖、施設内でも医師・看護師等の人材不足も問題となっています。資源や人材が不足する中で、いかに地域住民を支えていくことができるかが課題となっています。総合支援事業等への協力も重要ですが、特に重要と考えているのが病院の退院支援です。当施設では入退院を管理する部署の設置がないため、MSWを中心に病棟看護師、リハ職員と協働し、入院直後の段階から退院を見据えて支援できるような仕組みの構築を目指しています。また退院後の切れ目ない支援も目指し、リハ職員が直接家族・居宅ケアマネ・福祉用具事業所等との連絡も取るように意識しています。駆け出しのため多職種の連携では、不足があり悔しい思いをすることが多いですが、県士会事業や研修会で学んだ「叶える可能性」を胸に、当院ではリハ職員が中心となって、退院支援の仕組みを構築していきたいと思っております。

職員の募集もしておりますので、興味のある方がいらっしゃいましたら、ご連絡をお待ちしております。



令和6年度

第5回理事会 議事録

日 時：令和7年1月18日（土） 13：00～16：25

会 場：オンライン（Zoom）でのWeb開催

出席者：四方、門脇、村山、尾崎、小山、山倉、青柳、
上杉、片山、斎藤、佐藤、渋谷、嶋倉、知名、
間宮、室橋、山中、吉井（以上、理事18名）、
二村、水越（以上、監事2名）

欠席者：石井（以上、理事1名）

理事会定足数：理事18名の出席を確認、定款の所定数
を満たしたので、理事会として成立する。

【報告事項】 省略

【協議事項】

第1号議案：会員管理について（入会・退会・休会・
復会）（令和7年1月18日時点）

入会者：10名 退会者：7名

正会員数：1,062名（内、休会26名）

学生会員：17名

→門脇副会長：新潟リハビリテーション大学からの
申込が多かった理由は。

→知名理事：現場で働いている先輩方の活動を学生
に届けることを意識して、広報活動を行っている。

→四方会長：生会員を増やすため、各養成校ともに
周知の仕方を工夫できると良い。

⇒ 承認

第2号議案：令和7年度 新潟県作業療法士会事業計
画・予算案について

四方会長より、次年度は40周年記念式典という周年事
業があるので、例年に比べ予算が膨らんだ。収支につ
いて、業務執行理事会で検討された内容を以下に抜粋
して報告する。

・委嘱状が発行された者は研修会参加費が無料となっ
ているが、活用されておらずメリットになっていな
い（データ提示）次年度より廃止とし、自分の所属
している委員会の研修会のみ無料に変更。

・入会3年未満、休会からの復会后1年間、再入会后1
年間の会員の研修会参加費は、これまでと同様に無料
とする。また、現職者共通、現職者選択、MTDLP委
員会の研修会の2回目以降の参加費無料は継続する。

・年会費、研修会参加費、委託費の大幅な増収は見込

めないため、支出を200万円削減する。

・200万円の赤字の予算書となるが、単年度予算とし
て赤字の予算書を作成することは問題なし。

○学会運営委員会

63万円削減（第1回合同学術大会の収支を参考にする）

○学術誌編集委員会

11万円削減（会員一人に一冊ではなく施設で一部へ
変更、自宅会員には配送なし）

○現職者共通研修委員会

4万円削減（会議の回数、委員の人数が多いため）

○現職者選択研修委員会

4万円削減（会議の回数、委員の人数が多いため）

○生涯教育委員会

2万円削減

○生活行為向上マネジメント委員会

8.5万削減（事例検討会の回数を1回減らす）

○スキルアップ研修委員会

16万円削減（研修会を2回、または合同学術大会へ
組み込む）

○広報委員会

35万円削減（セキュリティ改修費用を令和8年度へ
持ち越す）

○公開講座委員会

14万円削減（新潟で起業している産業OTを講師に依頼、
広報に予算がかかるので県とタッグを組み、土木関係
の労働者にも広く周知できると良いのではないか）

○地域包括ケアシステム推進委員会

16万円削減

○下越～上越ブロック

すべてのブロックが3万円を超えないよう予算再編
し、全ブロックで1万円削減

○地域共生社会推進委員会

研修会参加費を計上すること。派遣会員の会議や情
報交換会ではなく、研修会として取り扱い、まだ茶
の間に派遣していない会員にも参加してもらうなど
内容を検討し研修会参加費を徴収する。

○特別支援教育委員会

9万円削減（無料派遣を終了し、派遣をすべて有料
にする）

○障害福祉対策委員会

2万円削減

○福祉用具対策委員会

3.5万円削減（研修会を1回減らす）

○ICT研修委員会

4万円削減（合同学術大会は対面のみのため予算を計上している項目を削除、研修会は難病サポートセンターとの協業開催のため、本研修会参加費のみ無料とする）

○精神分野推進委員会

10万円削減（施設見学、研修をどちらかに一方にする）

○災害対策委員会

2万円削減

○移動支援対策委員会

2万円削減（事業縮小、相談窓口としての事業計画）

○倫理委員会、表彰委員会合わせて

1万円削減

→青柳理事：術誌は次年度に限らず、今後も会員一人につき1冊にしないということか。興味関心についてアンケートを検討していた。

→四方会長→今後については話をしていないが、もとの仕組みに戻すと施設に一部となる。アンケート自体を辞めた方が良いとは考えていないので、LINEでアンケートを配信するなど、お金のかけられない方法で検討して欲しい。

→吉井理事：収入を増やすことは難しいが、賛助会員を増やすか、県や市からの委託事業を増やすなど、なるべく収入を増やす取り組みを考えて欲しい。

→山中理事：次年度より、リハ協議会から事務員給与として年間12万円を入れる。

→吉井理事：特別支援教育委員会の派遣の料金設定について、県士会を窓口とし、学校側が派遣会員（個人）へ謝金と交通費を支払う形になるか。目安として1時間5,000円、別途交通費。

→四方会長：窓口を士会事務局とし、依頼があった場合には特別支援教育委員会が派遣調整を行う。公文書発行や謝礼支払については、支払元（学校側）と派遣者（会員）が話し合いのうえ決定する。事例検討数や依頼内容にもよるが、謝金の目安は半日1万円（3時間程度）+別途交通費を提示する形で良いのではないかと。

→吉井理事：メルマガは予算通りで良いか。事務局には時間外手当をつけなくても良いか。

→山倉事務局長：時間外手当をつけなくても良いように業務を調整する。

→吉井理事：事務員へ社会保険料を支払わなくて良いよう時間で調整する方向で良いか。

→四方会長：そのように考えている。106万円以上になる場合、勤務時間で調整する。

⇒各々の担当委員会の予算を見直し、1月31日までに吉井財務部長宛に提出する。

第3号議案：新潟県作業療法士会 メルマガ配信におけるHP改修について

次年度よりメルマガ配信を開始するにあたり、県士会HP上でメルマガ登録について案内したい。現在のHPのバナーを改修、または新たにバナーを作成する必要がある。トップページに掲載すると目につきやすいが、HPの改修内容によって金額が変わるため協議事項としたい。

案1) 県士会HPにてフローティングバナーを新設

案2) HPトップ画像の写真内に案内用のボタン式バナーを組み込む

案3) 案1、2を同時に行う

⇒ 案1で承認

第4号議案：令和7年度 表彰対象者について

表彰委員会より、役員表彰：吉井真里様、功労者表彰：一ノ本隆史様の2名を推薦する。

⇒ 承認

第5号議案：特別支援対策委員会 名称変更について

現在の名称は、障害を持った子どもに対する支援をイメージしやすい。委員会活動の方向性として、診断名の有無や年齢で区切ることなく、子どもを取り巻く学校や家庭へ広く支援をしていきたいと考えている。名称を変更し、対外的にも委員会の役割を分かりやすくしたいため、「特別支援」から「こども」という名称に変更することを提案する。

⇒ 「こどもサポート委員会」として承認

18歳以上の対象者にも切れ目なく支援できるよう、障害福祉対策委員会とのつながりを持つこと。こどもサポート委員会として、5歳児検診に対応できるように、長岡市に勤務するOTの協力を得ながら委員会内での班分けなども検討し、連携を図っていく。

その他（吉井理事）

2025年4月の改正公益法人法改正に伴い、当士会は外部監事の設置が義務付けられることになる。詳細については理事会後に山倉事務局長から理事配信。

以上

SAKAimed 急性期からの＊
 ハンドセラピーを
 お手伝いします。

＊ スプリント ＊

酒井医療株式会社
 新潟営業所
 Tel: 025-278-4777
 www.sakaimed.co.jp

介護用品、レンタル・販売
 リハビリ機器、医療機器販売

(株)いわしや
悠久堂医科器械店

本 社 TEL 0258-47-1848
 新潟営業所 TEL 025-284-6866

各種車椅子・座位保持装置・ベッド
 ・コミュニケーションエイド・福祉機器
 ・介護用品・介護保険レンタル・住宅改修

(株) G・T・B
 (オーエックス新越)

〒956-0017
 新潟県新潟市秋葉区あおば通2丁目28-27
 TEL 0250-25-2626 FAX 0250-25-7710
<https://www.gtb-niigata.jp/>

義肢・装具・介護レンタル
 ご相談ご用命は弊社にお任せ下さい。

社団法人 日本義肢協会登録・中部125号 

(株) 田村義肢製作所

〒950-1151 新潟市中央区湖南21番地11
 TEL 025 281-0303
 FAX 025 281-0339

LUNA CAST
ルナキャスト[®]
 熱可塑性ギプス包帯

硬化後も再成形できる！
 手軽で便利な現場の味方

- 70℃以上のお湯で軟化し、素手で使用可能
- 硬化後の補強も簡単
- フィット性に優れている



やさしい目で健康を見つめる...
イワツキ株式会社

新潟県作業療法士会事務局

〒950-0872
 新潟市東区牡丹山3丁目1番11号 三森ビル301号
 <TEL> 025-279-2083 <FAX> 025-384-0018
 <E-mail> ot-niigata.toki4721@helen.ocn.ne.jp

No.27 2025年2月27日発行

発行責任者：四方 秀 人
 編集責任者：尾 崎 生
 発 行：公益社団法人新潟県作業療法士会広報部
 〒950-0983 新潟市中央区神道寺2-5-1
 総合リハビリテーションみどり病院
 印 刷：株式会社 タカヨシ